

全 明治廿五年十二月首刊
每十二日出版

版权所有

版權登錄

著者 東京市神田區 福地源一郎

發行者 東京市神田區 和田篤太郎

印刷者 東京市神田區 根山厚高亮

發行所 東京市神田區 春陽堂

2/5/38

稟告

一 江湖御花玉様方倍々御繁榮幸賀候様御吹聴申上候通
 御店は他の亦本専林と目的を異にし世運風潮に先だ
 ち文學社會に錚々たる大家方の手に成る新規新案の原
 稿相送り製本に注意し逐次出版致候間愛顧諸君方御費
 成御購願の程希望仕候

一 此實價書目の外日敵の書籍は御命令に隨ひ御取次仕候
 間署名者出版人等御記號御注文願上候尤も從來の亦
 本は書目附りてよろしと前段は無油斷他店より一層
 廉價に相働き候間自然高價にも差上候時は御申越次第
 直引可申候

一 致金方は内國通運早速便又は銀行或は江戸橋郵便本局
 宛等のかはせにて何れも取金に御願申上度候

一 御注文書目三日以内に必ず出荷可仕候

一 此切取紙へ品物御書入御注文の御方へは該實價書目の
 内特別一割引にて御送り申上候

一 郵券代用は一割増にて願上候

一 宿所姓名は可成御明瞭に掛書文字にて判然御願願上候

一 御親友御同僚中小説雜書御愛讀の御方の
 宿所御姓名御通知願上度拙店より早速書
 目御送り可申候

一 前件は下段及裏面に書入場所所有之候間御
 注意願上候

東京日本橋
 通四丁目角 春陽堂 和田篤太郎

切取線

御注文主住氏名

書籍を購せらるる諸君の住氏名

--	--

○ 小新浦	○ 史南村	○ 櫻庭	○ 不著者	○ 入書	○ 長村	○ 訓後	○ 集朱	○ 聽工	○ 雄澤	○ 西澤	○ 剛著	○ 松島
說作六の	史著外	櫻庭作	著者詳	入書	長村作	訓後	集朱	聽工	雄澤	西澤	剛著	松島
花鬼	荒乃	鳳小	夏袖	歷史	北海道	新圖	四書	四書	教授	近世	地理學	近世
相撲	海實	系	一日	叢談	新圖	書	書	案	學	學	學	刊
郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價六錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢	郵實稅價四錢
○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著	○ 山人著
山紅	川上	二南	致の	製本	美切	術八	亭十	渡邊	術名	美印	部類	世界
山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著	山人著
三小	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說	人說
妻嵐	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車
近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近	近近
刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊	刊刊

新刊書籍目錄追加

要摘書文	箋文注					書目冊數
	金	金	金	金	金	
小計ノ金	金					書目冊數
	金	金	金	金	金	
運賃	郵稅				書目冊數	

切取線

櫻庭著 小説むら竹

全部廿卷 合巻五冊
大凡三千頁
美製買價壹圓五十錢
運賃廿錢

全部目録

- 第一集 玉簾窓の月 下宿屋 走馬燈 酒へ所 他山の石 松の雨 三筋町の通人 人の囁 義理の棚 繭繭小説目 水の流れ 義理の棚 繭繭小説目 鏡の下の影法師 ヲツカシヤ 軒の毒に耐 影法師 ヲツカシヤ 軒の垂水 跡取息子の時 振分道 人の行末 文の間 大坂の語 人の權妻の果 面目玉 俳優氣 梅の錦の舎り 堀の中よし 擬博多 雨の舎り 堀の中よし 擬博多 頼世寫眞鏡 腹の子 大石真虎の作し 頼世寫眞鏡 腹の子 大石真虎の作し 樂 頼世寫眞鏡 腹の子 大石真虎の作し 第四集 運葉娘 對扇 紅菱 小町娘 殺生石 川添柳 駒めぐりの記 原入浴の記 秩父紀行 房州紀行 木曾道中記 かしら 頼世寫眞鏡 腹の子 大石真虎の作し 第五集 運葉娘 對扇 紅菱 小町娘 殺生石 川添柳 駒めぐりの記 原入浴の記 秩父紀行 房州紀行 木曾道中記

新作十二番

半紙木版摺極彩色表紙口書入美本
一冊讀切各實價三十三錢郵税まけ

- 一番 櫻庭著 勝 闘 全
○二番 紅葉村著 此ぬ 闘 全
○三番 山田美著 教師三味 全
○四番 妙齋著 桂 姫 全
○五番 南人著 鎌倉武士 全
○六番 學士著 十津川 全
○七番 居雪著 梅そ の 全
○八番 幸堂著 蓬萊 全
○九番 得知著 一夜妻 全
○十番 外史著 風流魔 全

文學世界 全十二部

半紙木版摺
彩色表紙
美本
各一冊讀切
買價八錢
郵税二錢

- 第一 紅葉村 命の安賣
○第二 山田美 猿面冠者
○第三 妙齋 かくし妻
○第四 巖谷 かくし妻
○第五 忍月 辻占
○第六 正直 かくれんぼ
○第七 江見 野試合
○第八 水蔭 野試合
○第九 松華 今みゆさ
○第十 乙羽 今みゆさ
○第十一 安田 有り哉神も佛も
○第十二 廣津 有り哉神も佛も

小説聚芳十種全部書目

各一冊讀切
一冊讀切
三冊讀切
四錢郵税

- 一卷 香雪著 花の種 全一冊
○二卷 紅葉村著 新色懺悔 全一冊
○三卷 山田美著 やたらトま 全一冊
○四卷 南翠著 臥待月 全一冊
○五卷 抱一庵著 闇中政治家 全一冊
○六卷 廣津柳 糸のみたれ 全一冊
○七卷 三味道人著 戀の重荷 全一冊
○八卷 忍月著 黄金村 全一冊
○九卷 幸堂著 冬さげん 全一冊
○十卷 竹の舎 雪達摩 全一冊

紅葉山人著作第二版



實價廿五錢郵稅六錢

香雪怪物屋敷全	依田學著拾遺後日連枝楠	海庭著苦	雙村著破	森田思譯大	軒居思譯風流	忍月著志	唐士著	錦中城
郵五錢	郵八錢	郵八錢	郵五錢	郵二錢	郵二錢	郵五錢	金廿錢	郵稅四錢

南宮新蓮池の水禽全	小宮山即らぬ火全	真居士著とりかへば全	採新著水と石全	香新著喜團圓全	人新著喜團圓全	三人著追月夜全	南史著	外史著
郵八錢	郵八錢	郵八錢	郵八錢	郵五錢	郵八錢	郵三錢	郵稅四錢	郵稅四錢

忍月著 露子姫 全三版

外南史著 露子全	外南史著 日葵全	外南史著 照日全	外南史著 悲歌全	外南史著 旭章全	外南史著 滿春全	外南史著 行路全	外南史著 萬春全	外南史著 金香全
郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅六錢	郵稅六錢	郵稅六錢	郵稅六錢	郵稅六錢

丁々美たれ咲 完

前田香新形時繪護謨櫛全	雪散人著月雲兩面鏡全	採人著椿の花全	加藤芳屋大川物語全	霧原著曼府の叛亂全	塚原著新方萬金丹全	庭村著當世大風呂敷全	幸室得知作	輕口春のまよ全	雜談淡路島全	花火淡路島全	埋居士著眞美人全	春亭九華校補全	增補大坂軍記全	岡本著幸福之種全
郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢	郵稅四錢

廣津柳浪作



實價金三十五錢 郵稅八錢

無類本三版三百三十一頁

山田美丸 新引新太平記 再版

實價金廿錢 郵稅四錢

竊業根遂に堅く怪物其幹に培へば枝は天日を支へて一天常に漢々。男兒毒を啖はし血まで紙れ、こゝに足利の天下を固めて兎も角も十三代、此腕の力に向ふ敵聊も日本に無いか笑止な！幹腐れて虫生じ、國衰へて乃ち革命。革命を衰世の反動と思ふたなら吾佛獨尊の亂臣賊子の評は言へまい………足利直義舌

訂正太平記 中本全三冊于三百頁餘 實價金五十錢郵稅十六錢

帆雨樓主人著 櫻痴居士閱

今日之東京 石版畫 全

紅葉鹿子 全

福地源尊號美談 全

簡山小著 改造眞壯婦 全

室重弘著 社會眞壯婦 全

鳩牛澤伴著 實價金廿五錢 郵稅六錢

第二版 小説新五女集

書中目錄 奇男兒(六回) 對面(三回) 眞美人(上中下) 一利那(四回)

紅葉山人著作 小説伽羅枕 三版 郵稅六錢



尾崎紅葉氏常に好て短編を綴る、數年の著作五十餘種に及ぶと雖も、未だ曾て伽羅枕の如き長編を見ず、金剛石の徑一寸なるもの、特に實惜すべきなり、而して其着想は濃麗婉約其行文は瘦勁清深所謂紅葉山人の體裁は收めて此一巻に在り製本グロース金文字入大本

第二版 南洋の大波瀾

(政治小説全一冊實價金四十五錢郵稅六錢) 未廣鐵腸居士の政治小説多しと雖其規模の廣大にして巧みに政治上社會上の有様を寫出一人を以て忽ち笑ひ忽ち怒り忽ち痛哭せしむる此書の如きは未だ曾て有らざるなり居士が胸中の不平慷慨は卷いて南洋の大波瀾となす故に字々活動して筆々神あり誠に近來絶無の一大小説なり

天四居士開書

第二版 小説新五女集 全

大本極美製實價三十錢郵稅六錢

第一觀音堂梅田源二郎 ● 第二白毛翁永井雅

樂 ● 第三好丈夫平野次郎 ● 第四薩摩下り

中 僧月照 ● 第五双俠近藤正慎 ● 大福院百步 ●

第六猿が辻姉小路公知朝臣 ● 第七生徒毒婦

目 萩野 ● 第八古狂生頼三樹 ● 第九古壯士木戸

録 公 ● 第十無頼漢木戸公忠僕其助

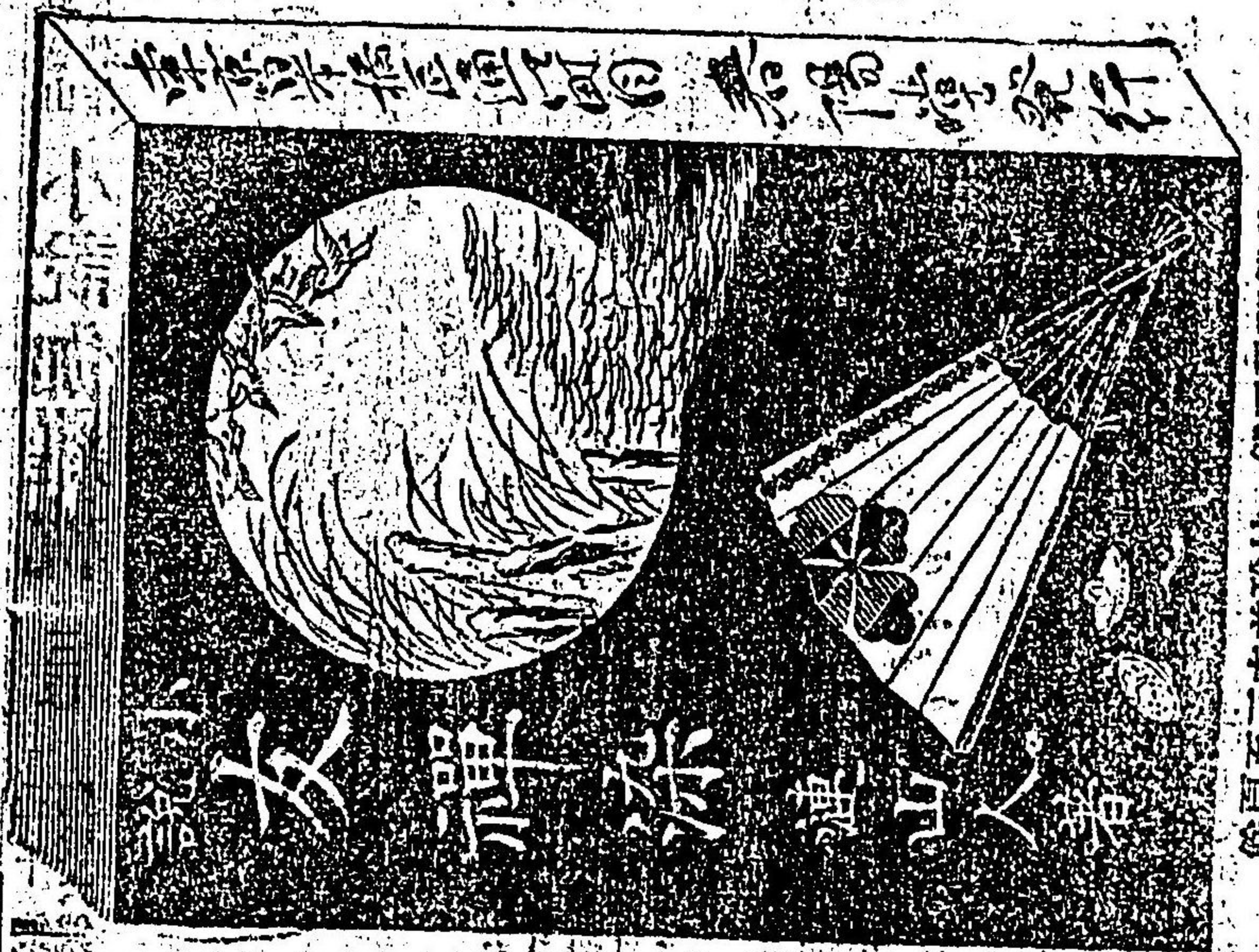
ちぬの浦再二月月 完 七版

美製大本實價金廿錢郵稅四錢

うて退け、かきつんでたは正徳享保に男を愛た三月月次郎吉福 集結の窮下駄に江戸の八百八町を踏鳴らし、飛鳥の山の落花狼藉 を油に止め、うては帯六尺の身に伊達横綱の福さばき大江戸 に一名物を添へ一町奴で御座るは

人は花に眠り月に酔ふの今日此快絶社絶の響いづ、特權の奇技斬新は更に冒す、字々飛動、句々靈活、大俠が斗の如き勝玉の如き情を寫し來つて讀者の眉を掛け肉を動かす、思軒居士が眞筆動健の序文は著者の人さなりを描出し著者が自筆の口實は優に大俠の動きいでんとするの趣あり、且一回毎に嚴肅の細評ありて一層の觀を添ふ、疑ふ者は試みに讀め

實價廿五錢 郵稅四錢 幸田壽中著 實價廿五錢 郵稅六錢



- 幸田壽中著 實價廿五錢 郵稅六錢
- 書中目次 ● 辻淨瑠璃 ● 寐耳鐵砲
- 櫻庭著 蓮葉娘 全 郵稅四錢
 - 櫻庭著 新殺川添柳 全 郵稅四錢
 - 前田香著 轉宅叢談 全 郵稅四錢
 - 雪散人著 二天婦 全 郵稅二錢
 - 官崎三著 魯敏遜漂流記 全 郵稅四錢
 - 牛山鶴著 井上勸譯 世界狐の裁判 全 郵稅六錢
 - 飯田宇由君補綴 故小室信介先生遺稿 全 郵稅四錢
 - 興亞綺談夢戀々 全 郵稅四錢
 - 森蘭外著 水沫集 全 郵稅十六錢

第三版

坪内逍遙 春の屋漫筆

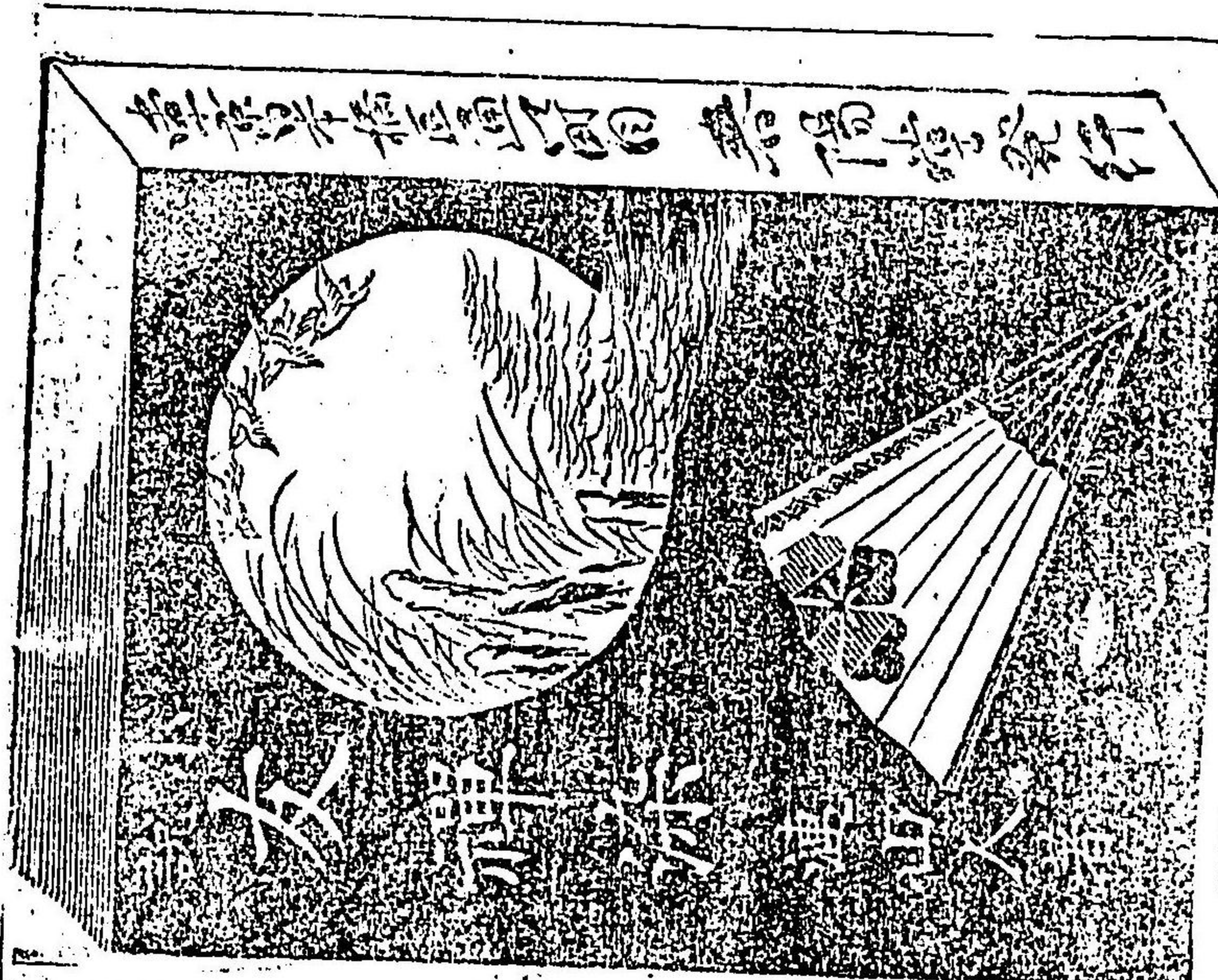
實價三十錢 郵稅六錢

此書は坪内逍遙氏が近頃の筆に成れる三種の文章を含めるものあり第一種は風世嘲俗の物語にして第二種は物語の如くに綴りたる文學的評論なり而して第三種は最もをかしく面白き西洋の逸話九十餘件を誰人にもわかるやうにあたらかに翻譯したるものなり第一種を讀まば當世の社會宛然として眼に映すべく第二種を讀まば現今の文運を下するに足るべく第三種を讀まば奇人英雄君子才人新陳代謝して讀者が面前を通過するを見るが如き興あるべし

○ 西村芝 近 懷 慨 家 列 傳

- 山居士著
- 佐久間象山 ● 渡邊華山 ● 梅田雲漢 ● 藤田東湖 ● 堀
 - 浮田一蕙 ● 蒲生君平 ● 高山彦九郎 ● 林子平 ● 吉田松蔭
 - 頼三樹 ● 僧月照 ● 平野國臣 ● 武田耕雲齋 ● 頼山陽
 - 水戸齊昭 ● 雲井龍雄 ● 高杉晉作 ● 福原越後 ● 高野長英
 - 三好監物 ● 藥川星巖 ● 小原鐵心 ● 久坂通武 ● 坂本龍馬
 - 藤本鐵石 ● 橋本左内 ● 安積武貞 ● 安島帶刀 ● 日下部伊三
 - 諸公等詳傳也 ● 大橋順藏 ● 滑川八郎 ● 岩倉具視 ● 木戸孝允

實價廿四錢郵稅四錢



辛田澤中著

實價廿五錢 郵稅六錢

書中目次 ● 辻淨瑠璃 ● 藤耳鐵砲

- 櫻庭著 蓮葉娘 全 六錢 郵稅四錢
- 櫻庭著 新殺川添柳 全 六錢 郵稅四錢
- 前田香著 轉宅叢談 全 六錢 郵稅四錢
- 宮崎三著 二夫婦 全 六錢 郵稅四錢
- 味道人著 傳放逐漂流記 全 十錢 郵稅四錢
- 牛山鶴著 井上勘譯 世界狐の裁判 全 十錢 郵稅六錢
- ゲーテ原著 禽獸飯田宇由君補綴 故小室信介先生遺稿 全 十錢 郵稅六錢
- 興亞綺談夢戀々 全 二十五錢 郵稅四錢
- 森鷗外著 水沫集 全 六十錢 郵稅十六錢

第三版

源氏物語の春の屋漫筆

實價三十錢 郵稅六錢

此書は坪内逍遙氏が近頃の筆に成れる三種の文章を含めるものなり第一種は諷世嘲俗の物語にして第二種は物語の如くに綴りたる文學的評論なり而して第三種は最もをかしく面白き西洋の逸話九十餘件を誰人にもわかるやうにあたらかに翻譯したるものなり第一種を讀まば當世の社會宛然として眼に映すべく第二種を讀まば現今の文運を卜するに足るべく第三種を讀まば奇人英雄君子才人新陳代謝して讀者が面前を通過するを見るが如き興あるべし

○ 西村芝 近 懷 慨 家 列 傳

全 郵 八 稅 四 錢 錢

- 書中人名目録
- 佐久間象山 ● 渡邊華山 ● 梅田雲濱 ● 藤田東湖 ● 堀
 - 浮田一蕙 ● 浦生君平 ● 高山彦九郎 ● 林子平 ● 吉田
 - 賴三樹 ● 僧月照 ● 平野國臣 ● 武田耕雲齋 ● 賴
 - 水戸齊昭 ● 雲井龍雄 ● 高杉晉作 ● 福原越後 ● 高野
 - 三好監物 ● 築川星巖 ● 小原鐵心 ● 久坂通武 ● 坂本
 - 藤本鐵石 ● 橋本左内 ● 安積武貞 ● 岩倉具視 ● 日下部
 - 藤銅父子 ● 大橋順藏 ● 清川八郎 ● 岩倉具視 ● 木戸
 - 諸公等傳也

前河竹默阿彌著作

每月發行

實價金廿錢

郵稅四錢

十二



菊版本美次卷

引續發行

第一號 勸善懲惡觀機關一名村井長庵巧破傘 八幕
 第二號 茲江戸小腕達引三幕怪談月笠森三幕
 第三號 明石島藏しちぢつし 外 浄瑠璃壹幕
 松島千太島衛月の白浪五幕 浄瑠璃壹幕

右は御重原の俳優が勤めたるまゝの正本ゆゑ居ながらにして其時の芝居を見るの樂しみあれば御求めの上御一覽を偏奉希上候

美術畫

- 第一號 長澤蘆雪真筆 丹鶴愛雛鳥之圖 豎軸大判 一尺六寸幅 一寸極彩色 實價各金十二錢 宛郵稅二錢宛
- 第二號 狩野越前守 法眼元信筆 玄宗皇帝楊貴妃之圖 豎軸大判 一尺六寸幅 一寸極彩色 實價各金十二錢 宛郵稅二錢宛
- 第三號 筆者不明 處女虛無僧と粧之圖 豎軸大判 一尺六寸幅 一寸極彩色 實價各金十二錢 宛郵稅二錢宛
- 第四號 狩野雪信女子 美人之圖 豎軸大判 一尺六寸幅 一寸極彩色 實價各金十二錢 宛郵稅二錢宛
- 第五號 英一蝶真筆 獅子舞遊兒之圖 豎軸大判 一尺六寸幅 一寸極彩色 實價各金十二錢 宛郵稅二錢宛

小説六通書

- 全三冊讀切實價金廿七錢郵稅四錢
 此書は幸堂得知標註字入小説實表紙縮半紙木版彩色摺の表紙見返し美麗なる和本也
- 社會世界未來記 大 全 郵二十五錢
 - 藤藤伯序志士淑女の想海 全 郵十錢
 - 辻治之著 亞非利加内地 空中旅行 全 郵八錢
 - シヨールスベル著 井上勸譯 三十五日間 空中旅行 全 郵六錢
 - シヨールスベル著 福田直彦譯 萬里北極旅行 全 郵十五錢
 - 志士 櫻 全 郵七錢
 - 政治 雨 前 全 郵四錢
 - 鐵腸 國會開設の前後 全 郵四錢
 - 依田百川序 辻治之著 破窓の風琴 全 郵三錢

湖處新作 まぼろし 完

- 須藤著 小説心中 全 郵六錢
- 岡野 裁判秋暮嘆 全 郵二錢
- 碩著 小 河尻寶琴著 依田百川補助 豐臣太閤裂封册 全 郵十五錢
- 隔戀防鬼 車 全 郵五錢
- 高田早苗 山田長政の傳 全 郵十錢
- 藤澤 社會 日本未來 全 郵五錢
- 藤松 社會 日本未來 全 郵五錢
- 蓋世 比斯馬克公傳 全 郵廿五錢
- 偉業 比斯馬克公傳 全 郵廿五錢
- 雙 鸞 春話 全 郵十二錢
- 石川 再生花 神譚 全 郵十二錢
- 鴻齋 奇緣花 神譚 全 郵十二錢
- 大屋 專 現今記者列傳 全 郵八錢

十三

石黒忠意先生評序 谷口吉太郎君纂譯

通俗病理問答 第一編

附即治法 郵稅四錢

第一章 人體構造の概略 第一骨格 第二肉 第三皮膚 第四呼吸器の構造 第五消化器の構造 第六循環器の構造 第七排泄器の構造 第八生殖器の構造 第九眼 第十耳 第十一鼻 第十二口 第十三舌 第十四喉 第十五咽 第十六食道 第十七胃 第十八腸 第十九肝 第二十脾 第二十一肺 第二十二腎 第二十三膀胱 第二十四尿管 第二十五生殖器 第二十六皮膚 第二十七眼 第二十八耳 第二十九鼻 第三十口 第三十一舌 第三十二喉 第三十三咽 第三十四食道 第三十五胃 第三十六腸 第三十七肝 第三十八脾 第三十九肺 第四十腎 第四十一膀胱 第四十二尿管 第四十三生殖器 第四十四皮膚 第四十五眼 第四十六耳 第四十七鼻 第四十八口 第四十九舌 第五十喉 第五十一咽 第五十二食道 第五十三胃 第五十四腸 第五十五肝 第五十六脾 第五十七肺 第五十八腎 第五十九膀胱 第六十尿管 第六十一生殖器 第六十二皮膚 第六十三眼 第六十四耳 第六十五鼻 第六十六口 第六十七舌 第六十八喉 第六十九咽 第七十食道 第七十一胃 第七十二腸 第七十三肝 第七十四脾 第七十五肺 第七十六腎 第七十七膀胱 第七十八尿管 第七十九生殖器 第八十皮膚 第八十一眼 第八十二耳 第八十三鼻 第八十四口 第八十五舌 第八十六喉 第八十七咽 第八十八食道 第八十九胃 第九十腸 第九十一肝 第九十二脾 第九十三肺 第九十四腎 第九十五膀胱 第九十六尿管 第九十七生殖器 第九十八皮膚 第九十九眼 第一百眼 第一百零一年 第一百零二年 第一百零三年 第一百零四年 第一百零五年 第一百零六年 第一百零七年 第一百零八年 第一百零九年 第一百一十眼

流行病ある時の心得 十四

此書は人體解剖の細圖を付し各自治療の出來得る 横藥名訓合法及養生方法等詳細に記載あり

通俗病理問答 第二編

實價金十八錢 郵稅四錢

第一章 總目錄 第二章 腦 第三章 心 第四章 肺 第五章 肝 第六章 脾 第七章 腎 第八章 膀胱 第九章 尿管 第十章 生殖器 第十一章 皮膚 第十二章 眼 第十三章 耳 第十四章 鼻 第十五章 口 第十六章 舌 第十七章 喉 第十八章 咽 第十九章 食道 第二十章 胃 第二十一章 腸 第二十二章 肝 第二十三章 脾 第二十四章 肺 第二十五章 腎 第二十六章 膀胱 第二十七章 尿管 第二十八章 生殖器 第二十九章 皮膚 第三十章 眼 第三十一章 耳 第三十二章 鼻 第三十三章 口 第三十四章 舌 第三十五章 喉 第三十六章 咽 第三十七章 食道 第三十八章 胃 第三十九章 腸 第四十章 肝 第四十一章 脾 第四十二章 肺 第四十三章 腎 第四十四章 膀胱 第四十五章 尿管 第四十六章 生殖器 第四十七章 皮膚 第四十八章 眼 第四十九章 耳 第五十章 鼻 第五十一章 口 第五十二章 舌 第五十三章 喉 第五十四章 咽 第五十五章 食道 第五十六章 胃 第五十七章 腸 第五十八章 肝 第五十九章 脾 第六十章 肺 第六十一章 腎 第六十二章 膀胱 第六十三章 尿管 第六十四章 生殖器 第六十五章 皮膚 第六十六章 眼 第六十七章 耳 第六十八章 鼻 第六十九章 口 第七十章 舌 第七十一章 喉 第七十二章 咽 第七十三章 食道 第七十四章 胃 第七十五章 腸 第七十六章 肝 第七十七章 脾 第七十八章 肺 第七十九章 腎 第八十章 膀胱 第八十一章 尿管 第八十二章 生殖器 第八十三章 皮膚 第八十四章 眼 第八十五章 耳 第八十六章 鼻 第八十七章 口 第八十八章 舌 第八十九章 喉 第九十章 咽 第九十一章 食道 第九十二章 胃 第九十三章 腸 第九十四章 肝 第九十五章 脾 第九十六章 肺 第九十七章 腎 第九十八章 膀胱 第九十九章 尿管 第一百章 生殖器 第一百零一章 皮膚 第一百零二年 第一百零三年 第一百零四年 第一百零五年 第一百零六年 第一百零七年 第一百零八年 第一百零九年 第一百一十眼

橋爪 男女交合新論

全 金 十 錢 郵稅四錢

心得 五三 肺脈に付て 〇 目次 總說 空氣 飲食 衣服 住家 婚姻 交媾 妊娠 小兒 幼病 原因 注意 傳染 入病 原因 預防 虎列刺 疾 病 弱室 扶斯 赤痢 實扶 的里 亞 痘 疹 痧 毒 疥 癬 人間 福利 の 階級 資質 の 區別 發力 の 強弱 (完)

本書は東京淺草山佐吉なる者編纂なる類似出版致し 直ちに差止候へ共地方賣場へ重段の安きを爲め回居候處も 財貨備蓄者及出版所御時味の上御買取遠なき様御注意願上候

● 目録 ● 第一 交媾は最も貴重すべし ● 第二 愛情は 情人と交媾せんと望みに出 ● 第三 交媾は男女の 構造愛情及び婚姻の精神たり ● 第四 交媾の適否に 依り利害苦樂を異にする ● 第五 交媾の目的及び其方 法 ● 第六 兩親の形狀性質等は其兒に遺傳す ● 第七 父母たるべき者は未生兒の爲に其才徳行狀を修養 すべし ● 第八 精神の愛は淫慾の爲に必要なり ● 第九 精 神の愛を以て爲す交媾は淫慾の爲に爲す交媾より 多許の快樂を生ず ● 第十 精神の愛は淫慾を歴し 淫慾は精神の愛を歴す ● 第十一 愛情と生殖器とは 相感應す ● 第十二 愛戀する人には陰具勃張し厭忌 する人には陰具萎縮す ● 第十三 愛情と交媾とは必 ず相伴ふ ● 第十四 甲に愛情ありて乙と交媾するは 必通を重ねるあり ● 第十五 情慾は淫慾に必要なり ● 第十六 交媾には男女とも盛に情慾を發動すべし

● 第十七 情慾は女子にありて最も緊要あり ● 第十 八 女子は男子を以て情慾を發動せしめ生殖の功を 遂る義務を負ふ ● 第十九 交媾の時女子淫情を生ぜ ざれば男女とも其害を受く ● 第二十 男女淫情を交換 せざれば激怒を生ず ● 第二十一 多淫の夫に忠告の言 べし ● 第二十二 女子の情慾少き理由及び是を發生せしむ る方法 ● 第二十三 孕胎の後は交媾すべからず ● 第二 十四 新婚の夫妻に忠告の言 ● 第二十五 父母の望に隨て 男兒或は女兒を生じ得べき法 ● 第二十六 交媾に付て 廿六 設生に可なる日時を論ず ● 第二十七 交媾に付て の注意 ● 第二十八 交媾は全身の作用を促勵す ● 第二 十九 精神の喉嚨と羞恥とは設生に害あり ● 第三十 情慾 を節抑するは害あらざる説 ● 第三十一 亂雜の交媾は 爲すべからず ● 第三十二 妾を蓄ふる害を論ず ● 第三 十三 避妊は天理に背く事 ● 第三十四 五精を論ず ● 第三 十五 避妊は天理に背く事 ● 第三十六 五精を論ず ● 第三 十七 六子なき原因及び其治法を論ず ● 第三十八 陰部解 剖の學を世に普及する事の必要を論ず ● 第三十九 陰部 構造及び其効用 ● 第四十 尿道及び其効用 ● 第四十一 陰 莖の構造及び其効用 ● 第四十二 陰莖と包皮との構造及 其効用 ● 第四十三 子宮の構造及び其効用 ● 第四十四 陰 道の構造及び其効用 ● 第四十五 卵巣の構造及び其効用 ● 第四十六 陰道の構造及び其効用 ● 第四十七 陰道の構造及び其効用 ● 第四十八 陰道の構造及び其効用 ● 第四十九 陰道の構造及び其効用 ● 第五十 陰道の構造及び其効用 ● 第五十一 陰道の構造及び其効用 ● 第五十二 陰道の構造及び其効用 ● 第五十三 陰道の構造及び其効用 ● 第五十四 陰道の構造及び其効用 ● 第五十五 陰道の構造及び其効用 ● 第五十六 陰道の構造及び其効用 ● 第五十七 陰道の構造及び其効用 ● 第五十八 陰道の構造及び其効用 ● 第五十九 陰道の構造及び其効用 ● 第六十 陰道の構造及び其効用 ● 第六十一 陰道の構造及び其効用 ● 第六十二 陰道の構造及び其効用 ● 第六十三 陰道の構造及び其効用 ● 第六十四 陰道の構造及び其効用 ● 第六十五 陰道の構造及び其効用 ● 第六十六 陰道の構造及び其効用 ● 第六十七 陰道の構造及び其効用 ● 第六十八 陰道の構造及び其効用 ● 第六十九 陰道の構造及び其効用 ● 第七十 陰道の構造及び其効用 ● 第七十一 陰道の構造及び其効用 ● 第七十二 陰道の構造及び其効用 ● 第七十三 陰道の構造及び其効用 ● 第七十四 陰道の構造及び其効用 ● 第七十五 陰道の構造及び其効用 ● 第七十六 陰道の構造及び其効用 ● 第七十七 陰道の構造及び其効用 ● 第七十八 陰道の構造及び其効用 ● 第七十九 陰道の構造及び其効用 ● 第八十 陰道の構造及び其効用 ● 第八十一 陰道の構造及び其効用 ● 第八十二 陰道の構造及び其効用 ● 第八十三 陰道の構造及び其効用 ● 第八十四 陰道の構造及び其効用 ● 第八十五 陰道の構造及び其効用 ● 第八十六 陰道の構造及び其効用 ● 第八十七 陰道の構造及び其効用 ● 第八十八 陰道の構造及び其効用 ● 第八十九 陰道の構造及び其効用 ● 第九十 陰道の構造及び其効用 ● 第九十一 陰道の構造及び其効用 ● 第九十二 陰道の構造及び其効用 ● 第九十三 陰道の構造及び其効用 ● 第九十四 陰道の構造及び其効用 ● 第九十五 陰道の構造及び其効用 ● 第九十六 陰道の構造及び其効用 ● 第九十七 陰道の構造及び其効用 ● 第九十八 陰道の構造及び其効用 ● 第九十九 陰道の構造及び其効用 ● 第一百 陰道の構造及び其効用 ● 第一百零一年 第一百零二年 第一百零三年 第一百零四年 第一百零五年 第一百零六年 第一百零七年 第一百零八年 第一百零九年 第一百一十眼

四版 ちぬの浦 奴の小万 完

廿五年六月發行 定價金三十錢 郵稅六錢

浪六氏が引絞つたる満月の弓勢、その三の矢として兵と放ちたるは此小説なり、諸君が胸の鐵的にグサと貫くか、但し外れて他の岩石に鐵くだけんか、試みに受けて見玉へと申すは萬事に自慢せぬ……

第五版

新小説

ちぬの浦

浪六氏著

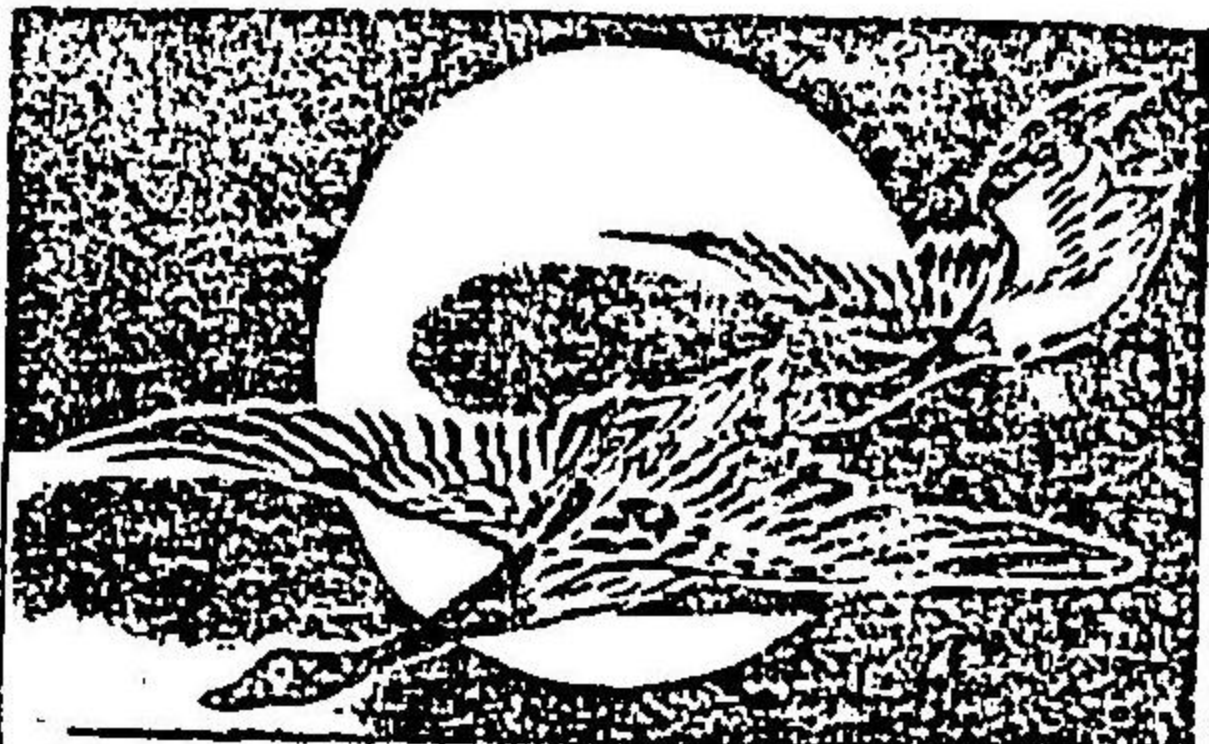
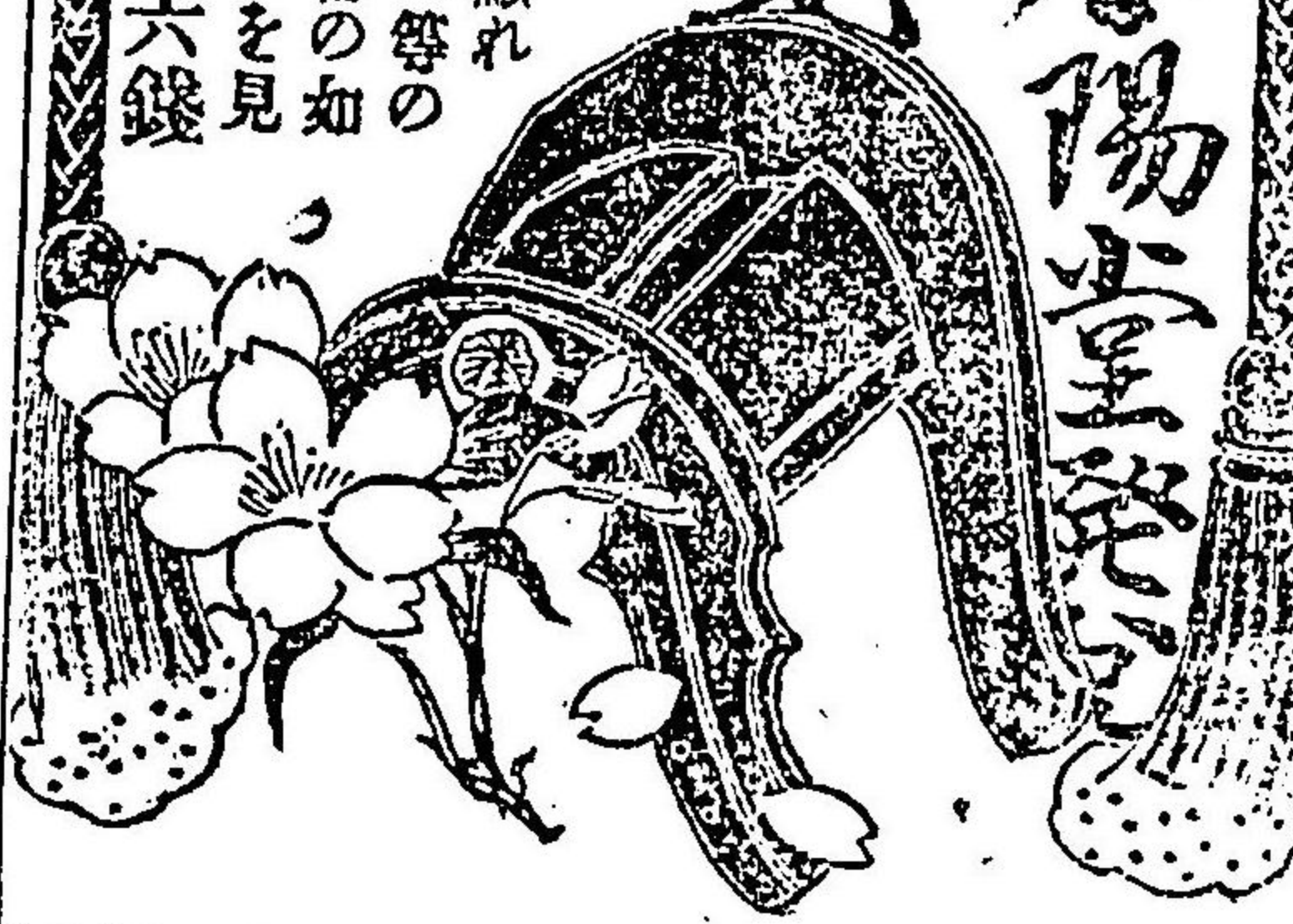
東京日本橋區四丁目

春陽堂發行

舟賃同女之助完

三日月の影もチラと見へしまし、世人が待ちよ待つてヤイノくと焦れたる女之助いよくめかしてんで願れたり、著者は浪六、文致意匠は更々喋々せず、表紙口書等の刷師を泣かせて美麗高尚を極めたるは本店いまだ此書の如きあらず且つ御断り申上ぐ女之助は男あり、姿ばかりを見えて浮かれ玉ひず

大本美製實價三十錢郵稅六錢



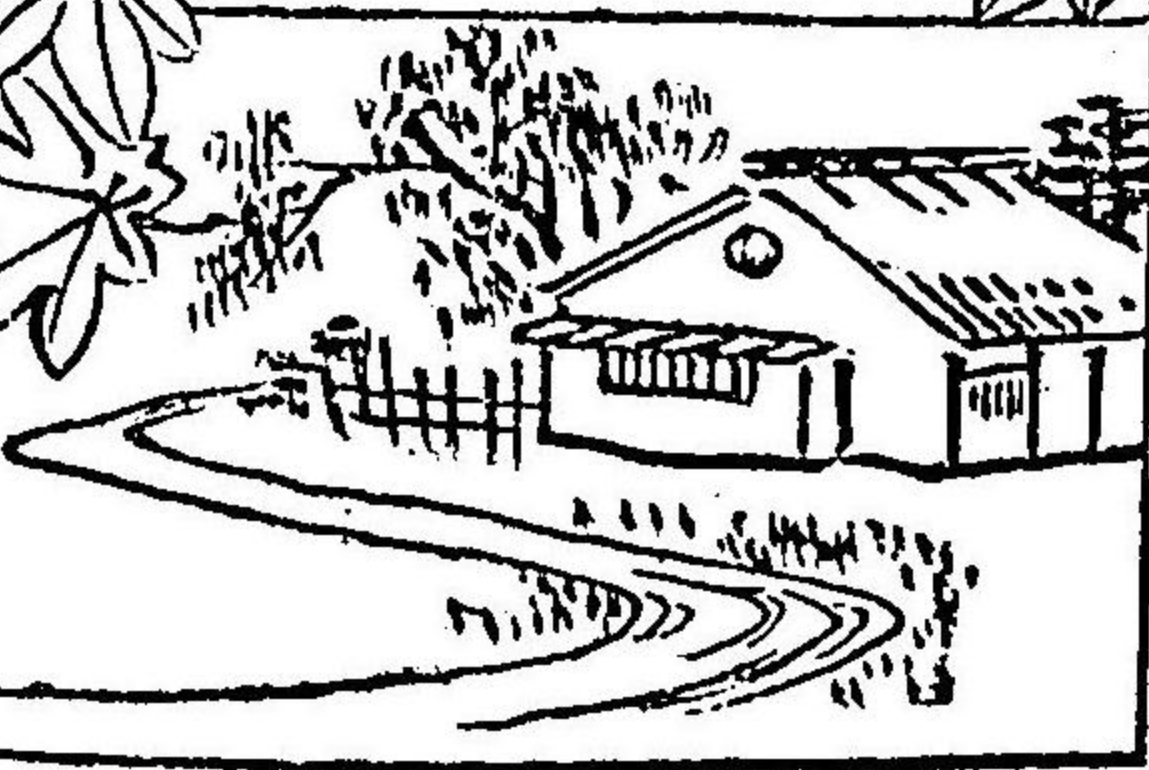
菊判半裁形無類美裝

實價金廿錢郵稅四錢

ちぬの浦

東京日本橋區通四町目角

春陽堂發行



正直正太夫

實價金廿錢 郵稅四錢

これを読む者は、子誦まぬ者も、子誦しと讀まぬは御勝手なれども買ふと買はぬは御勝手にあらず是非共一本を購ひ玉はれと慾の無い春陽堂が申す

正太夫記

東條竹翠著

○八重櫻里の夕暮 全

○春のにしき 全

○一風戀の妻折 全

○子著説小春の夕暮 全

郵五錢 稅二錢

郵五錢 稅二錢

郵七錢 稅二錢

郵七錢 稅二錢

春陽堂新刊

評者 劇童只好 思軒居士 南翠外史 太華山人 錦隣子 三味道人

實價五錢 郵稅五厘

43
3
01

東京英和學校教授松島剛著
大本美製石版地圖十九葉插入
十八

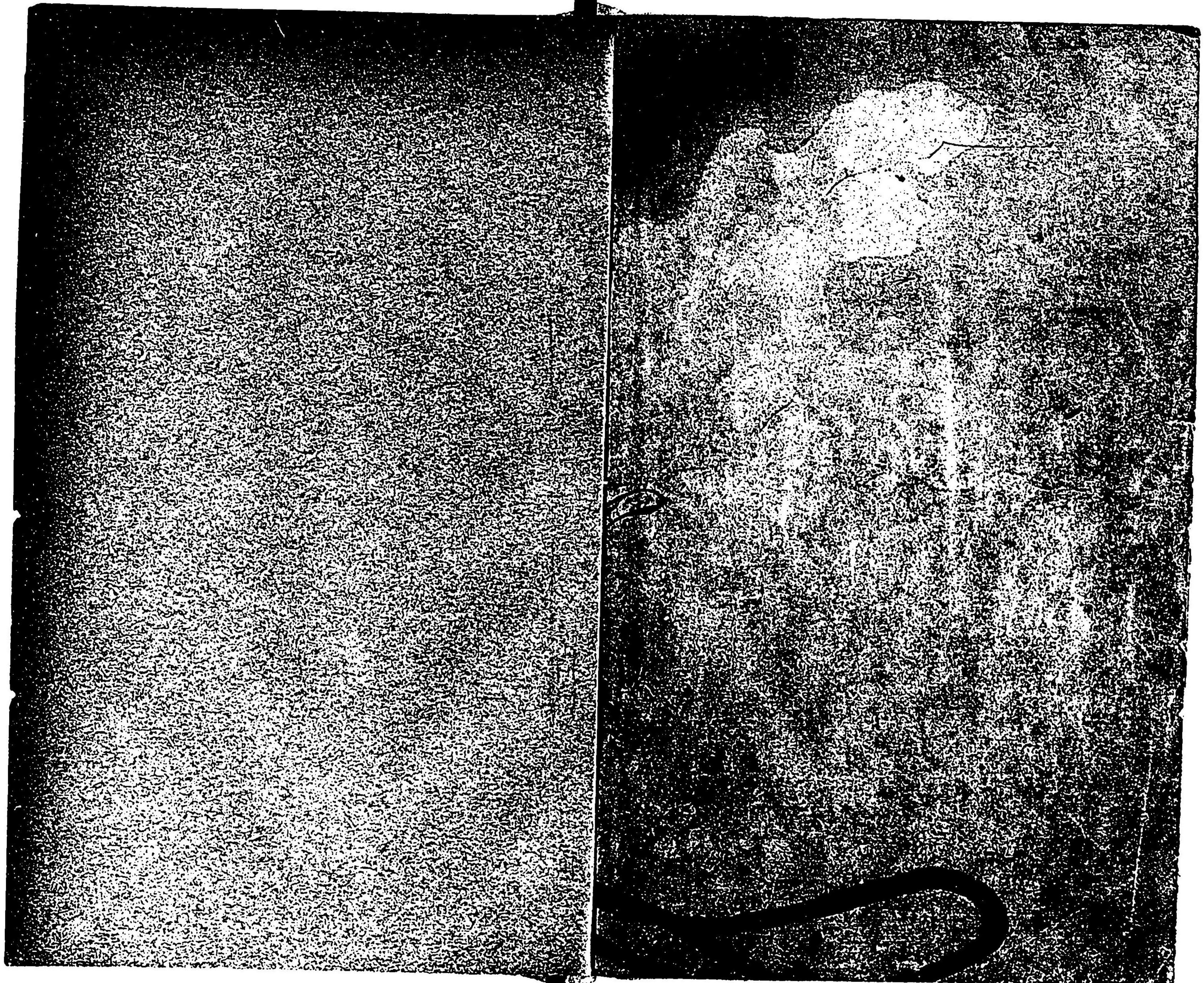
文部
省
定
濟

近世地理學

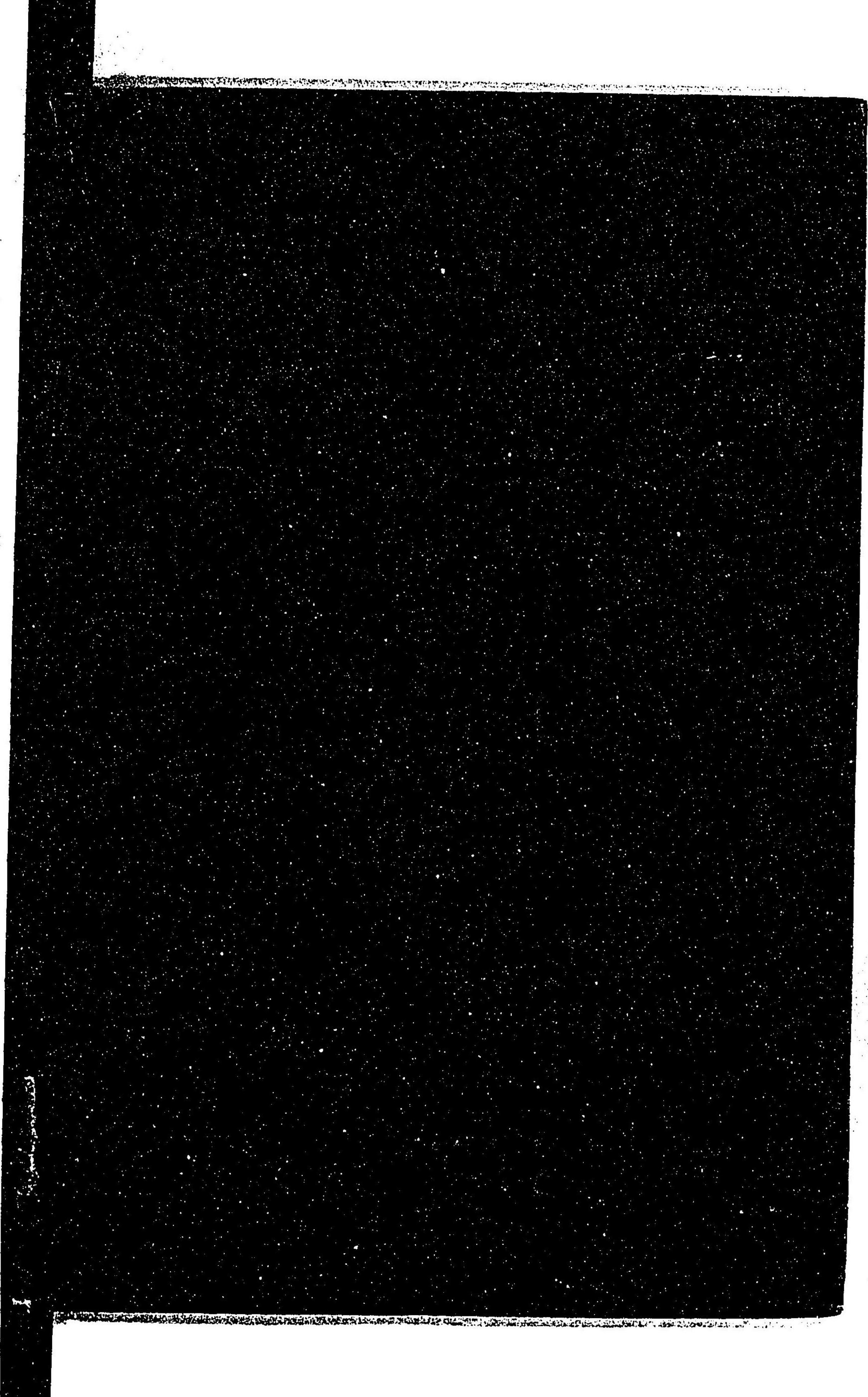
長
部
完
訂正第三版

發兌以來日尙淺しと雖も大に地理學者の賞賛を博し教育家の歡迎を受け新聞雜誌の好評を被り遂に
 書林社會博士地理學として喧傳せらるゝの光榮を得たるは實に本書近世地理學とす且其卷
 に於て若たらしめたるの實に本書近世地理學の壯麗なる材料の豊富なるも其價の至廉なるを以て天下の書肆を
 とす實に弊店の面目此上なし而て今や文部省の檢定を経て中學校教師範學校
 の教科用書たるに最も適當なるの極印を得たり併せて普通讀者の參考書として裨益少から
 學博士原田豐吉君中央氣象學士中村精男君植物學士三好學君帝國大學教授ト
 元良勇二郎君教育家田中登作君同杉山文悟君同大矢透君和
 家鈴木弘恭君土農學士三成文一郎君同水産關澤明清君博士巨知部
 忠承君土農學士小杉轍三郎君同神保小虎君同水科七三
 郎君土農學士堀正太郎君東京英和學校教授駒井覺君帝國大學北原多作君等各專門家
 を得たれば其精確斬新なる事ハ之を諸新聞雜誌の公評に委して更に喋々を要せず謹白

發行者 春陽堂 和田篤太郎記す



43
162



205079-000-1

43-162

桜痴放言

福地 桜痴 (源一郎) / 著

M25

EDV-0080



